

面的防除実証試験「合成フェロモン」を設置しました

置賜森林管理署では、山形県森林研究研修センターが実用化を目指すカシノナガキクイムシの「面的防除法」実証試験のフィールドを提供しています。

今年度当署では、ナラの立木を使用する「おとり木林分」3箇所、伐採したナラの丸太を使用する「おとり丸太」を7箇所を設置し、試験データの収集を目指しています。

6月19日には、山形県森林研究研修センターの齊藤正一森林環境部長、小国町役場職員と共に「合成フェロモン」を設置しました。

当日は、小国町が設置した小国町森林組合「木質チップ工場」の敷地に設置したはい積み型おとり丸太への合成フェロモン設置に立ち会うことができ、たいへん参考になりました。

カシノナガキクイムシの羽化時期を迎え、これらの試験も正念場となります。これらの試験から、より効果的な防除事業の基礎データが採取できることを期待しているところです。



齊藤正一部長による説明



おとり木林分でのフェロモン設置



おとり丸太



小国町森林組合チップ工場での説明風景